

福祉文芸集
2019

「現場」にふれた
学生たちの想い

はじめに

医療福祉学部に入學した多くの学生は、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・保育士の国家資格取得を目指して、日々の勉學に励んでいます。福祉を志した学生は、人の役立つ仕事に就きたいという希望を抱いて、対人援助の知識や技術を学内で学び、それらを基礎として、それぞれの資格に必要な現場実習を経験します。この文芸集は、日々の実習のなかでの交流場面を学生の感性で自由に表現し、各専攻の編集委員が中心になってまとめたものです。

保育園・児童施設・障害者施設・高齢者施設・病院・各種の相談機関・社会福祉協議会等多岐にわたる現場実習で、福祉専門職としてのみならず人間的に成長している姿が、この文芸集の作品から読み取れます。

活気に満ちた子どもたちとの関わり、心身の障害を抱えて心もとない暮らしをしておられる障害者や高齢者との関わりを通して、人と人とが響き合える素晴らしさを体験することで、学生が自己のありように気づき、成長できるのだと思います。まさに現場の持つ教育力に畏敬の念を抱きます。

福祉は、人と人との関わりを通して互いに人間的な成長を促すことができる素晴らしい仕事です。学生は、福祉現場で心の琴線に触れる体験をし、それを自分の言の葉で紡いでいます。これもひとえに実習施設・機関の施設長さまを始め指導者のみな様方のお陰であり、厚くお礼申しあげます。さらに実習中に学生に多くの学びや気づきをお与えいただいた利用者の方々に深く感謝いたします。

福祉の究極の目的は、どのような状況下であろうとも福祉的な支援を必要とする人々に寄り添い、幸せに生活できるように支援することです。福祉を志した学生のみなさんが、福祉の原点を見失うことなく崇高な仕事に誇りを持って学び続けてほしいと願っています。

広島国際大学

医療福祉学部

学部長

久保田

トミ子

人生の 道しるべになれ 福祉人

(医療福祉専攻)

【解説】

病院実習の際に退院支援をしている時に、今後どうしていけばいいか不安な気持ちを持っていた患者や家族が、計画が決まった後は、安心した表情になって笑顔だった様子を見て、福祉職は、人生の道しるべになるのではないかと思っただけからです。

病院と 地域が繋がり 助け合う

(介護福祉学専攻)

【解説】

私が行った実習先の病院は、無料定額診療事業や実習先独自の事業を行っているなど地域との関わりが深く、地域の住民を支えていたことを学びました。私が思っていた病院のイメージが変わり深く印象に残っています。

様々な事を 経験し学んだ 病院実習

(医療福祉学専攻)

【解説】

24日間の実習の中で、様々な課題を抱えた患者たちと関わり、その中で患者たちへの色々な支援方法を見て聞いて学ぶことができた。また院内だけでなく院外での活動にも同行させて頂きMSWの仕事幅広く学べたから。

葛藤を 共有し合い 意思決定

(医療福祉学専攻)

【解説】

患者だけではなく、患者の家族も含めてMSWも葛藤を抱えていることを実習中に学んだ。患者中心の意思決定支援ができるように、意思決定における患者やその家族の葛藤を共有し解決していくことが重要だと感じた。

ひとりでは
抱えきれぬ
葛藤に
光を灯す
心の支え

(保育学専攻)

【解説】

実習中、患者・家族との面談同席において、不安な面持ちで面談を受ける患者や涙を流しながら今後の生活への悩みや葛藤を話す家族の姿を見てきた。その中で、ソーシャルワーカーは常に患者・家族一人ひとりの思いに耳を傾け、寄り添い、問題解決に向けて尽力していた。このようなソーシャルワーカーの働きかけが、患者・家族の未来を少しずつ照らし、短期間の関わりの中でいつしか患者・家族にとってソーシャルワーカーは心の支えとなっていたと感じられた。

「退屈だ」

患者の口から
そればかり

（保育学専攻）

【解説】

入院中の患者の面接の際の出来事です。どの患者と話しても「いつ退院できるのか」「病院生活は退屈だ」という話をされていました。約60日の入院生活で少しでも楽しみをもってもらう方がいいのか、退院してからの楽しい日々のために頑張ってもら方がいいのか、面接時の言葉選びにとっても悩みました。

答えはない

あなたの判断に

答えはない

（医療福祉学専攻）

【解説】

実習の中で私は患者が葛藤しているところや希望がある人を見かけることが多々あった。その中でどのような判断でも、たとえ命をおとしてしまうような判断でも、それが悪いことでも良いという事でもないということを学んだ。この実習を通して患者の意見を尊重できるようなソーシャルワーカーになりたいと思った。

思いとは

言葉だけでは

分からない

心の声に

耳を傾け

(保育学専攻)

【解説】

実習を通して、相手が話してくれたことの全てが本心あるとは限らないのだということ学びました。表面的な言葉にとらわれるのではなく、そこでの相手の表情や態度にも注目し、発せられた言葉に含まれる意図を見逃さず汲み取ることが大切なのだと思えました。

支えてる

一人の患者に

たくさんの人

(医療福祉学専攻)

【解説】

実習中、一人の患者を支援するのにカンファレンスやその他連携を通して自分の想像以上に多くの専門機関や職種が関わっているのだということを実感できたから。

地元愛 就職先は 江田島で

(保育学専攻)

【解説】

江田島市社会福祉協議会で実習させていただき、江田島市の良さを改めて感じることができました。江田島市の住民としての視点、実習生としての視点両方から江田島市の特徴やニーズについて学べることができ、これからも江田島で頑張ろうと思えました。

ボランティア できることから 始めよう

(保育学専攻)

【解説】

実習中、たくさんの方のボランティアの方とお会いする機会があり、その中で「できる人が出来ること、得意なことをやろう」と言う言葉が印象的でした。無理に活動するのではなく、自分の得意なことをできる時にすることが大切だと気付きました。

江田島市 高齢化進む 最先端

(保育学専攻)

【解説】

実習中いろいろな場面で深刻な高齢化を感じる場面がありました。しかし、地域の方や江田島市社協がさまざまな方法で地域を盛り上げ、高齢化への対応は最先端だということを実感しました。

毎日が 新たな人と 良い出会い

(介護福祉学専攻)

【解説】

実習中は、毎日違う人からお話を聞き、そのたび地域についてたくさんさんの知識を得ることができました。いろんな人が温かくむかえて下さり、人と出会うことはとても良いことだと思つたため。

新しい 出会いを重ね 地域知る

(介護福祉学専攻)

【解説】

毎日実習をする中で、地域住民や地域の中心人物となる人、医療・福祉の現場で活躍する専門職の人などが、多くの人との出会いを通じて、様々なお話を聞くことができました。どの方も、温かく実習生を受け入れてくださったおかげで、いろんな視点からの地の強みや特徴を知ることができました。また、同時に人とのつながりの大切さを日々実感できたため、とても充実した実習となり、最終日を迎える頃には実習先が大好きになりました。

日々送る 常に学びの 島の夏

(医療福祉学専攻)

【解説】

夏時期の島で行う実習は常に学びを深める日々で、地域の方々ともお話ができて忘れられない実習になりました。

社協とは 地域に出回る

黒子かな

(医療福祉学専攻)

【解説】

社会福祉協議会での実習を通じて、地域に密着し、社協が主体となるのではなく、地域住民が主体となっていくことが重要だと肌で感じた。社協が地域を影で支えている様子が黒子の役割と同じに見えました。

思いやり それは福祉の 第一歩

(医療福祉学専攻)

【解説】

実習を通じて地域の色々な人と関わる際、多くが初対面の人達でコミュニケーションをとることが難しかったが、地域の人の温かさに触れることで改めて思いやりの大切さに気付くことができたから。

話すまで

焦らずそつと

見守つて

(医療福祉学専攻)

【解説】

初めは、距離を近づけるためにたくさん話しかけていましたが、子供達ひとりひとりペースがあり、その子のペースに合わせて距離を近づけていくことが大切なのだと教わりました。また、表情などからも子供達の本音を読み取ることができ、ただ見守るといふことの重要性も学びました。

難しい

上手いかわずに

悩むとき

救われるのも

あなたの笑顔

(医療福祉学専攻)

【解説】

利用者さんとのコミュニケーションが上手いかわにかつたりで、利用者さんのことで悩むことも多いけど、「また頑張ろう」と思わせてくれるのも利用者さんの笑顔であったという経験。

年代が バラバラすぎて どうしたら

(医療福祉学専攻)

【解説】

今回私は障害者施設で実習した。障害者施設の最初のイメージとして「20〜40代ぐらいの方と接するんだろうな」と思っていたが、私が実習した施設には園児から高齢者まで幅広い年代の利用者がいて驚いた。園児や小学生と関わりがほとんどない私は、子どもたちの迫力や元気さになかなかついていけず、どう接していけば良いのか分からなかった。また、施設には見た目では判別できない年齢の方もいたため、「すぐく年上だったらどうしよう」と思い接し方に本当に困った。

書く文字に おもいをこめた 計画書

(医療福祉学専攻)

【解説】

計画を立てるときに学んだのは、言葉の重みであった。実習中は文字だけで伝えるときの難しさや、計画書を本人が見た時どう思うか考えることができた。自分の思いを伝えるために丁寧に書くことが大切だと思った。

暑い中
人の力で
そよ風を

(医療福祉学専攻)

【解説】

実習中は暑い夏でした、それ以上に大変な実習でもありました。そんな中でもさわやかな顔をするにより暑い夏を少しでも和らげると実習中感じました。そうすることによりつらいと思っていた実習も身になるものとなりました。

毎日を
あなたと笑顔
同じ歩幅で

(医療福祉学専攻)

【解説】

私は実習中、「相手のペースに合わせて」を第一目標に利用者と接するように心がけた。初めはペースをつかめず苦労したが、日がたつにつれて笑顔も増えて会うことが実習中の楽しみとなった。その笑顔は私の宝物である。

お互いに
寄り添いあって
助け合おう

(医療福祉学専攻)

【解説】

利用者との対等な関係を築くことが大切だと思った。上から目線の支援では利用者を傷つけることがある。

実験体験の中
技術や知識を積んで
一歩前進

(医療福祉学専攻)

【解説】

実習の中で、様々な体験をさせていただきました。その中で様々なことをさせていただきました。将来私は、福祉職に就き、人の役に立ちたいので、今回の実習の中で、得た知識と技術を活かしていきたい。

街中で
優しい笑顔
見守る目

(医療福祉学専攻)

【解説】

実習の中で、行動援護に同行した時にショッピングセンターに行った。利用者さんが興奮して大きな声を出した時に、私は周りの目が気になった。しかし店員さんは、優しい笑顔でこちらの様子を見ていた。その時に、理解のある人が増えることの大切さがわかった。

人は皆
共に歩んで
生きていく

(医療福祉学専攻)

【解説】

施設での実習に参加して、利用者は協力・共同して作業を行っていくという強い気持ち。利用者や職員間での信頼関係の構築、それぞれがある。

外に出て
会うと必ず
何でおるん？

(保育学専攻)

【解説】

本人の思いを直接聞くことが出来ず、話しかけても、言葉が返ってこなかったのが、外部で会うと子どもの方から笑顔で「何でおるん？」と話してくれるようになり、子どもとの壁が無くなったと感じた瞬間だった。

黙々と
作業する君
職人の顔

(保育学専攻)

【解説】

利用者は、毎日黙々と一生懸命それぞれの作業をさ
れており、自分の仕事にやりがいを感じておられました。
た。仕事中的利用者の顔は、まるで職人のようでした。

会話から
自然と笑みが
こぼれてる

(医療福祉学専攻)

【解説】

今回の実習で、一人の利用者が他の利用者とは自分から積極的に話しかけていき皆に笑顔を見せていた。会話が私にとっての生きがいと私に伝えてくれた。これからも笑顔の絶えない人でいてほしい。

聞き取れない
聞きたいことを
本人から

(医療福祉学専攻)

【解説】

ケアプランを作成させていた利用者のアセスメント時に、ニーズを聞き出そうとしたが、はっきりとしたニーズをなかなか聞き出すことができなかった。

利用者に 話したつもりが 犬返事

(医療福祉学専攻)

【解説】

利用者さんの家に訪問して高齢者とコミュニケーションを取っていたら声の大きさには気を付けていたが利用者さんには自分が言ったことが聞こえなくて利用者さんが飼っている犬が吠えただけだった。

何事も 初めてだらけ

Let's トライ

(医療福祉学専攻)

【解説】

挑戦のトライとラグビーのトライをかけてみた。初めてのことでも挑戦したら、結果として見えてくる。実習は初めてのことだらけだったけど、積極的に挑戦することが必要だと実習を通して学んだ。

折り紙を
鶴に折っては
えがお咲く

(医療福祉学専攻)

【解説】

これは、私が実習の中で一番に印象的だったことで介護の現場に行く日が数回あり、初めて一対一で話をしなければならず、天気の話などすぐに終わってしまい、続かなかつた時にもってきていた折り紙を折っていたら利用者の方が興味を示してくれた、折り紙の話で盛り上がり、次の介護実習の時に利用者の方が折り紙を自分で持っていて待っていてくれたので、そのときの風景を思い出しながら書いた詩です。

乾髪で
心の距離
縮んだね

(医療福祉学専攻)

【解説】

お風呂上りの利用者の髪を乾かしながら会話したことで距離が縮まったから。

利用者に 寄り添いつくる 計画書

(医療福祉学専攻)

【解説】

利用者に寄り添い、その人について知ること、その人のニーズが見えてきて、支援計画書の作成につなげることができる。

涼しいな 高齢者には 夏の冬

(医療福祉学専攻)

【解説】

冷房をつけていると職員や私は涼しいと感じていたので、利用者の数人から「寒い」という声が上がった。ブルーケットを使っていたり上着を着たりして、そこでただ冬のようなだと感じました。

最初とは
全く違う
安心感

(医療福祉学専攻)

【解説】

実習最初の一週間は右も左もわからずいきなり現場に出た状態だったが、回数を重ねるごとに少しずつ慣れてきて職員の方も丁寧に教えてくださって最終日には笑顔で終わることができたためこのような言葉になった。

強かったな
おじいちゃんとの
五目並べ

(医療福祉学専攻)

【解説】

90代の男性の利用者がいつも五目並べに誘ってくれて、楽しみながら実習することができた。五目並べが強くて90代でもまだ体も脳も元気で驚いて、自分も老後はあの男性利用者のように元気に過ごしたいと思った。

えいえいお
きぶんがあたり
一日始まる

(医療福祉学専攻)

【解説】

私が行った作業所は一日が始まる前にみんなで大きな声で「えいえいおー」と掛け声を行なっていました。私はその掛け声が好きでそれを作業する前に聞くととても気分が上がりました。

利用者と
水やり収穫
畑作業

(医療福祉学専攻)

【解説】

実習中で印象に残った作業が畑作業でした。普段作業場で話すことがない利用者と畑作業中は話をすることができ、実習終盤には会話ができるようになっていきました。畑作業のやり方を利用者から教えてもらう中で利用者のストレンダスや性格など知ることができる場になった。

昼食を

子供とともに

食す時

ニーズを見つける

手がかりとなる

(医療福祉学専攻)

【解説】

実習で施設の子供たちと昼食を共にすることがあった。その時に母親の手作り弁当を持ってくる子もいれば、コンビニや冷凍食品の子もいた。この観察を通して、昼食ひとつにしてもその子の家庭環境を知るきっかけとなることに気づいた。

利用者と

目線を合わせる

大切さ

(医療福祉学専攻)

【解説】

実習中に利用者と距離を縮めたいというときに、利用者と会話をするときの目線を合わせることで、とても意味があると感じました。また、私はあなたと話したい、聞きたいという意思表示になり、お互いが話しやすい環境がつくられると思いました。

助け合う
地域の中で
笑顔の輪

(医療福祉学専攻)

【解説】

実習先の施設が、カフェがあったり祭りなどの催し物を積極的に行なったり定期的な訪問販売など積極的
に地域の人々と関わる機会があった。そのような活動
を行うことで、地域の中学生などのボランティアが積
極的に参加していたのが印象に残った。

考えず
侵してしまった
テリトリー
持たせてしまった
苦手意識

(医療福祉学専攻)

【解説】

利用者のアセスメントを行う時、利用者に対し一方
的に関わろうとしたことが原因で、次第に嫌がる反応
をされるようになった。実習生がきたことで施設の雰
囲気に変化していることを考えなければならなかった。

障害は 個性ととらえ 関わろう

（医療福祉学専攻）

【解説】

利用者のことを障がい者として見るのではなく、その障害をその人の個性として捉え、先入観を持つことなく一人の人間として関わらなければならぬと職員の方に教えていただいた。

傾聴が 関係作る 第一歩

（医療福祉学専攻）

【解説】

関係作りをする上で相手を受容して傾聴の姿勢を示すことが一番大切だと学びました。関係作りができることでアセスメントがスムーズにいき個別支援計画を立てやすくなると分かりました。

作業所が 利用者にとっての つながる場

（保育学専攻）

【解説】

利用者同士で楽しそうに会話をしたり、仕事内容や役割を教えあい、職員の方が作業の振り分けや座るメンバーをその都度考えて作業を進めていました。利用者の方にとって社会とつながる場であることを学びました。

日常に 隠れたヒント 探し出す

（保育学専攻）

【解説】

入所の施設のため、日常の小さな変化を感じ取り、適切な支援を行うことが支援者には求められていることがわかりました。また、面接だけでは得られない利用者のニーズなどを知るきっかけになると思いました。

利用者の
「またきてね」という
思いの意味

(保育学専攻)

【解説】

いつも利用者の方が帰る際に私に「またきてね」や「楽しかった」などと言ってくれたが、理解するのが難しかったです。職員の方に聞くと「実習生が自分自身に積極的に話しかけてくれることが嬉しい気持ちがありました。」と職員の方に教えてもらいました。

思い出と

たくさんの笑顔

ありがとう

(医療福祉学専攻)

【解説】

十四日間の実習の中で、多くの利用者さんとかかわり、いろいろなお話を聞かせていただきました。実習最終日、帰る前になると利用者さんが寄ってこられて、「面白かったし、楽しかった、ありがとう、頑張つてね」と言ってくださり、その一言でうれしくなると同時に少し寂しい気持ちになりました。

「なぜだろう」

考えながら

周り見る

(医療福祉学専攻)

【解説】

今回の精神保健福祉援助実習では、精神科病院へ行かせていただきました。最初のうちは、「へく」と思うことがあっても、そのもう一歩先の「なぜ」「どうして」ということまで考えられていませんでした。実習指導者さんに指導していただいていたからは「なぜだろう」と考えながら実習を行うと、充実度が違いました。とても学びの多かった14日間でした。

「あきらめる」
言葉の重みと
笑顔の裏側

(医療福祉学専攻)

【解説】

患者さんの話を聞く中で、とても多く聞いたのが、諦めるといふ言葉でした。病気のせいであきらめることもあったけど、あなたはできることがあるんだから頑張りなさいといわれたことがありました。言葉の重みと、その時の悲しげな笑顔が忘れられません。

ありがとう
心あたたか
また来よう

(医療福祉学専攻)

【解説】

実習中、不安もたくさんありくじけそうなきもありませんでしたが、患者さんからのありがとうという言葉にいつも励まされ毎日を頑張ることができました。患者さんからもらったありがとうを私も周りの人にたくさん返していきたいと思いました。

「意図的に」
寒いギヤグにも
意味がある

(医療福祉学専攻)

【解説】

指導者の方の親父ギヤグ、実は「意図的」なものでありと知り、「支援者と患者」という関係性だけでなく、「人と人」としての関係を大切にされていることを学びました。病気や障害を抱えた方を様々な角度から見つめ、向き合い、寄り添っていく姿勢を持つことが大切であると学ぶことが出来た実習でした。指導者の方のように「人と人」としての関係を大切に出来る専門職になれるよう、とりあえず親父ギヤグの修行から始めてみようかなと思います。

目指せムロツヨシ。

会う度に

褒めてもらえた

「いい笑顔」

(医療福祉学専攻)

【解説】

たくさんのお客様さんとかかわるなかで、笑顔を褒められることが多かったです。「あなたのいいところは、笑顔が素敵なところですよ!」「その笑顔があれば、この先どんなことがあっても乗り越えていきます!」という言葉が特に印象的で、その言葉をかけてくださった患者さんのことは、今でもよく覚えています。褒めてもらえたことで、笑顔を自分の長所として捉えることができ、実習に対するモチベーションの向上や自信につながりました。

実習中

たくさん得られた

達成感

(医療福祉学専攻)

【解説】

二週間という短い期間でしたが、実習中、毎日が刺激的なものでした。社会福祉援助現場実習にはなかった学びがこの実習で得られたのではないかと思います。期間中は苦しく長く感じていましたが、終わってみれば、あつという間の実習でした。

偏見を

無くして見れば

同じ人

(医療福祉学専攻)

【解説】

精神科病院に実習に行くまでは、精神障害者に対して急に大声を出したり、急に叩いたりするのではないかと、偏見を持っていました。しかし、実際に実習に行き、様々な精神障害者の方とコミュニケーションを取り、自分の中にあつた偏見が誤りであるということに気づくことができました。精神障害者も普段は健常者と同じで、精神症状に波があるため調子が悪いときもあるということを学びました。

受け止める

患者の思い

苦しみを

(医療福祉学専攻)

【解説】

実習において病棟の患者さんとお話をさせていただき、様々な思いを聞くことができました。「入院に対する思い、病気に對する思い、家族に對する思い、病気の苦しみ、差別や偏見に苦しんできたこと」など、たくさんの思いを知り、専門職として悩んだ時にはこの思いを思い出したいと思えます。

少しずつ
ステツプアップ
お互いに

(医療福祉学専攻)

【解説】

私は、精神科病院へ実習に行きました。ある患者さんは、一人暮らしをすることを目標に掲げていました。目標に向けて、現在できないことを出来るようにするために、患者さんなりに努力をされており、少しずつできることが増えてきたということを知りました。そのことから、何かを成し遂げるためには、少しずつステップアップしていくことが必要だと思いました。自分も患者さんと同じように、できないことを出来るようにしていくためにも、努力していこうと思いました。

介護実習を体験して(第1段階実習)

利用者と

コミュニケーション

会話から

(介護福祉学専攻)

【解説】

初日や二日目、実習へ伺い利用者さんとコミュニケーションを行う上で一番大切なことは何かと考えたとき、私は会話だと考えました。会話はコミュニケーションを取る上で重要であるため、基本である会話を常に意識していました。

利用者と

信頼築く

声掛けで

(介護福祉学専攻)

【解説】

入浴介助をしたり、車椅子のリフト操作をする時などは、まず一言声をかけることで利用者の方は安心され、信頼を築くことができます。そして、声をかけるだけでなく、ちよつとした心遣いも大切なことを学びました。

これからの実習でも声掛けと心遣いを大切にしていきたいです。

介護実習を体験して(第1段階実習)

【解説】

コミュニケーションをとるにも、どの介助をさせて
いただくにしても、信頼関係がなければ利用者の方に
安心していただけません。はじめは緊張していましたが、
毎日のあいさつを通し、コミュニケーションもと
れるようになり、利用者の方に名前を覚えていただけ
ました。そして、最終日には「また会いたい」と声を
かけていただき、充実した実習になったと改めて感じ
ました。

あいさつは
関係づくりの
第一歩
日に日に築く
信頼関係
(介護福祉学専攻)

介護実習を体験して(第1段階実習)

声掛けは
介護における
心臓だ

(介護福祉学専攻)

【解説】

ある日、私が利用者Aさんに「熱を測りたいので体温計を腋に挟んでください」と伝えたら胸を露出し、そこから測ろうとされていたためどう対応すれば良いかわからなかった。しかし、職員が「少し熱を測らせてね」と声をかけたら利用者Aさんはあっさりと測ってくれていたため同じ声掛けでも一つの言葉によって感じ方が大きく変わるのだなと感じた。

救われた
あなたの笑顔
ありがとう

(介護福祉学専攻)

【解説】

実習中落ち込んでしまった時利用者の笑顔に救われました。

利用者の

ありがとうの言葉が

一生の宝物

(介護福祉学専攻)

【解説】

たくさんご利用者さんとコミュニケーションを取ったり食事や着脱の介助など様々な場面で関わってたくさんのお話を学びました。

実習最後の日に『ありがとうございました』とお礼の言葉を言ったら利用者さん達から『楽しい思い出がありました。』と嬉しいお言葉を頂けたことがとても嬉しかった。

背が冷える

正しき答え

是か否か

(介護福祉学専攻)

【解説】

実習中、情緒の波が激しい利用者様が私に施設や他の利用者について否定的な発言をし、同意を求められた時のことを書きました。他の利用者の方の前で肯定するわけにもいかず、しかし否定するというのは一番してはいけないことなので何と答えるべきかと焦っていた時の私の状況です。

笑顔待つ その施設には 安心感

(介護福祉学専攻)

【解説】

初日から、職員さんの笑顔と利用者の方の笑顔があり、緊張する事も多かったけどその笑顔に安心感を持つことが出来た。その後も、毎朝行くと職員の方と明るく挨拶し、よし一日やりきるぞという気持ちにさせてもらえる雰囲気があった。また、利用者のご家族の方や来客の方にも明るく笑顔のある挨拶で迎え入れる施設全体の温かさをたどえた。笑顔と明るい挨拶をすることで人の心も温かくなり、挨拶された側も自然と笑顔になる。積極的な挨拶ができ人の心も暖かくできるような介護福祉士になりたいと思いました。

利用者の 笑顔で心 救われる

(介護福祉学専攻)

【解説】

初めての介護実習で、ベッドメイキングが上手にできなかつたり、レクリエーションの時間配分がうまくいかず、利用者が飽きている様子を感じて、落ち込んだ。そんな私に利用者が笑顔で話しかけてくださって、もっとがんばろうという気持ちになれた。

どこ出身 5分話せば ループする

(介護福祉学専攻)

【解説】

認知症の高齢者と話をしたときの体験です。質問に答えて話をして、気がついたら同じ質問をされて何度も同じことを言ったり聞かれたりしたことが印象的でした。上手く話を逸らさないと延々続くので大変です。

介護実習を体験して(第1段階実習)

【解説】

実習では様々な介助を体験させて頂きました。実際の介護の現場で行う介助はとても緊張しました。そのため、声掛けをすることを忘れたり、手が止まってしまったことが多々ありました。しかし、その度に職員さんが介助のコツや仕方を教えて下さりました。ですので、安心して介助を行うことができました。これから、自ら一歩踏み出せるようになるため、正しい知識と技術をしっかりと身に付けていこうと思います。

苦戦した

介助と対応

止まった手

助言をもらい

踏み出す一歩

(介護福祉学専攻)

介護実習を体験して(第1段階実習)

「久しぶり！」
笑顔あふれる
デイサービス

(介護福祉学専攻)

【解説】

実習の際にデイサービスを週一で利用されている方も多く、顔なじみになっている利用者の方同士では「お久しぶりです」と挨拶をして笑顔で話されている様子がとても印象的だったから。

自分知らず
子ども知らず
孫忘れず

(介護福祉学専攻)

【解説】

認知症の利用者は自分も子どもたちもよく忘れてしまいます。しかし、孫のことは、よく覚えていきます。孫はまだ成長中で、顔も声も変化していきます。しかし、同じ血縁の孫のことは覚えていきます。祖父母はいつも孫に会いたいと思っています。だから、仕事や学校が忙しくても、よく祖父と祖母に会いに行きます。そのような、面会の場面を表現しました。

介護実習を体験して(第1段階実習)

介護とは
老病の人への
愛かもね

(介護福祉学専攻)

【解説】

介護は、高齢者や病人など、世話をするだけでなく、その人に対して愛情をもって接していくことだと学びました。

実習中

いつもと違う

環境に

何想うのか

穏やかな日々

(介護福祉学専攻)

【解説】

いつも静かな利用者さんが、職員さんからよく感情が高ぶって怒ったり、物を投げたりする方であるとき、自分の実習中はその様なことは一切なかったため、実習生が来たという環境の変化によるためかと思った。認知症の方の環境の違いによる影響を知った。

利用者 季節行事 楽しみだ

(介護福祉学専攻)

【解説】

利用者さんは、季節ごとの行事がとても好きで、行事の日にはとてもウキウキしている利用者さんが大勢いました。行事の話になると、熱心に昔の時代に行われていた季節の行事について話をして下さることがあり、年に一回しかない行事であることが理由で、季節ごとの行事を楽しみにしていることがわかりました。

介護実習を体験して(第2段階実習)

また来たい
強く思える
居心地さ

(介護福祉学専攻)

【解説】

利用者の方から頼みごとをされたり、名前をたくさん呼んでもらい、話をする中で笑いあえたり、職員の方からも介護技術や医療的ケアなど様々なことを教えてください、毎日楽しいと思える実習となり、とても居心地がよかったです。今でも「また来たいな」と思うことがあります。

別れ際
最後の言葉も
ありがとう

(介護福祉学専攻)

【解説】

今回の実習でアセスメント対象であった利用者さんは、常日頃何かにつけて「ありがとう」と感謝されていた。最終日、お別れの挨拶をした時、「短い間だったけど、ありがとうね」とおっしゃった。実習終了とともに、感謝の言葉で胸が一杯になった。

介護実習を体験して(第2段階実習)

【解説】

利用者の方の介助や、日常生活に目を向けたとき、どうして介助が上手くできなかつたのか、どのような行っているのか、利用者の方はなぜ怒っているのかなど、一つ一つの出来事に何故そうなのか自分の考えを持つようになりました。職員の方からの助言や情報を頂き、新たな気づきを見つけたたびに次はもっとこうしていこうというように常に利用者さんの事を考えることができた実習だと思いました。

なんでかな
悩み考え
過ぎす日々
頭の中は
あなたでいっぱい
(介護福祉学専攻)

介護実習を体験して(第2段階実習)

いつの日も

染まる色は

違ってて

今日は何が

まってるだろう

(介護福祉学専攻)

【解説】

実習中、ある時は職員の方から介護技術について学んだり、また別の日は初めてご利用者の笑顔を見たり、実習期間の22日間は私にとって毎日が新鮮でした。そこで、今日はどんな1日になるんだろうとワクワクする私の毎日の心情を表現しました。

痛いのは

生きている証拠

ポジティブだ

(介護福祉学専攻)

【解説】

実習先での職員と利用者との会話での一言。実際こう考えるのはいいことだと思った。

介護実習を体験して(第2段階実習)

【解説】

普段は男性の職員からのも入浴介助を受ける利用者さんが、入浴日に、実習生の介助になると知り、笑いながら冗談交じりに「男性が介助するのはNG」とおっしゃられた。そこで男性の職員さんが「男性がNGなら僕もですか？」と聞くと笑いながら「はい」とおっしゃられていた。いつもの入浴介助でも、実習生の若い男性がいると女性に戻るといいう、そんな微笑ましい日常を俳句にしてみました。

普段なら

入浴介助

男性も

僕がいる日は

男性NG

(介護福祉学専攻)

介護実習を体験して(第3段階実習)

今日もまた
平和を願ひ
語りだす

(介護福祉学専攻)

【解説】

実習でケアプランを作成した担当利用者は認知症である。話すたびに、戦時中のこと、原爆で被爆したことを話題にする。それほど記憶に残っており、当事者として後世に伝えておきたいのだと思った。

トイレ前
職員急ぐ
傍らで
どちらも進まぬ
お先にどうぞ

(介護福祉学専攻)

【解説】

トイレ混雑時、職員が忙しなく利用者を誘導している傍で、利用者同士が譲り合っていた。どちらも引かず、職員が痺れを切らして車いすを押すまで続けている様子に、気持ちちが和んだ。

介護実習を体験して(第3段階実習)

足浴で
少しは気持ち
晴れたかな

(介護福祉学専攻)

【解説】

介護計画の実施において夜間の排泄回数を減らすことが目標であったが、結果に結びつかなかった。だが日中のストレスを軽減することにつながることで、担当した利用者の気持ちが少しでも変わったのではないかと思いき嬉しくなった。

過去の話
嬉しそうに語る
利用者の顔

(介護福祉学専攻)

【解説】

利用者が過去の話をする時は学生さんに聞いて貰えると喜んでいた。

介護実習を体験して(第3段階実習)

よしやろう
廊下に響く
掛け声が

(介護福祉学専攻)

【解説】

体操の介護計画を実施するときを受け持ちの利用者が、実施することにより積極的に声を出しながら行ってくれたことが印象に残っている。

九十七

忘れられない

一日に

みんなで祝い

涙溢れる

(介護福祉学専攻)

【解説】

ケアプランを実施した日が受け持ち利用者さんの誕生日でした。数名でレクリエーションをした後、全員で歌を歌い、手作りのバースデーカードを渡しました。すると、「ほんまに忘れられん一日になったわーありがとう」と涙を流されていました。こんなに喜んでいただけると思わなかったので、私もすごく嬉しい気持ちになりました。

介護実習を体験して(第3段階実習)

したいこと
支援しますよ
わたしたち

(介護福祉学専攻)

【解説】

今回の実習では、個別ケアについて学ぶ機会が多くあった。利用者の身体状況に合わせた細かなケアや、利用者本人の望む生活を実現させるために、職員が一人一人の利用者について深く知り、より快適に過ごしていただくために必要なことについて話し合いを何度もされていた。また、残存機能維持のためにすべてを利用者に行っていたのではなく、本人の意思を確認した上で、したくない時や調子が良くない時などは職員が支援を行う様子を見て、必要に応じた介助を行う上で、こういった思いを持っていることが大切だと思った。

食事あと
こつち座りと
椅子叩く

(介護福祉学専攻)

【解説】

最終日に言われたこと。

【解説】

「娘は自殺した」と涙ながらに語る利用者。大変なことを聞いてしまった、と息をのんだ。だがその数日後、面会に来たのは、亡くなったはずの娘だった!？ どういうことか利用者に尋ねると、「死んだと思っていたわ:」。いったいこの親子には、どんなドラマがあったというのだろうか。しかし娘が生きていて本当に良かった。最後に一言。「いや、生きてたんかい!!!」

「自殺した」
娘を想い
涙ぐむ
その数日後
娘、来訪:!!?
(介護福祉学専攻)

介護実習を体験して(第3段階実習)

いつまでも
気持ちは若い
利用者さん

(介護福祉学専攻)

【解説】

利用者の方に、年齢を聞くと、20代の方が多くいました。何歳になっても気持ちが若いのはいいことだと思います、詠みました。

声掛けを
伝える事の
大切さ

(介護福祉学専攻)

【解説】

介助を行う時、声掛けをしても利用者本人に伝わっているか、いないかで介助のやりやすさの大きな違いを実感しました。一つ一つ今から行う介助を本人に伝えて、気持ちを通じ合うことの大切さをより学ぶことが出来ました。

介護実習を体験して(第3段階実習)

利用者の
思い聞き出す
大切さ

(介護福祉学専攻)

【解説】

利用者がどのような生活を送りたいのか、生活する中で何を必要としているのかなどの思いを聞き出すことで、よりよい介護計画に繋がることが分かり、大切だと思った。

支え合い
少しの気遣い
笑顔産む

(介護福祉学専攻)

【解説】

実習で利用者さんとの間で体験して思った事を文字にしました。ちよつとした気遣いで、利用者にありがとうなどの言葉を頂き嬉しく感じました。また人は支えあっていることも体験しました。その中でほんの少しの思いやりや、気遣い一つで対人関係や人を幸せにすることを学びました。この実習では、人との関わり方も勉強し関わり方には色々な意味があることを学びました。

先生は 園に入ると

聖徳太子

(保育学専攻)

【解説】

聖徳太子は同時に十人の話を聞けるらしく、実習の時、子ども達が同時に色々な話を話してくる場面がよくあったので聖徳太子になった気分だった。

元気よく

「パプリカ」踊る

子どもたち

(保育学専攻)

【解説】

演奏会があり、地域の人と一緒に楽しんで参加した。その中で、「パプリカ」という子ども達に人気の曲を演奏している時、踊りを知っている子どもが元気よく踊っていた場面がすごく印象に残った。また、演奏会が終わった後も、みんなで「パプリカ」を歌いながら踊っていて、子ども達の無邪気な笑顔に元気をもらった。

いつ見ても

鼻水垂れてる

かわいいな

(保育学専攻)

【解説】

実習中にたくさんの子ども達が鼻水を垂らしているので、よく拭いてあげていました。「おし、きれいなった」と思い、子ども達と遊んでいたのですが、ふとまた顔を見ると、大量の鼻水が垂れており、その姿がかわいいなと思ったので句にしました。

ブランコを

おしておしてと

声がする

(保育学専攻)

【解説】

外遊びの時間に、一人の子どものブランコをおしていたら、「おねえちゃん先生ブランコおして。」とほかの子どもたちからも次々と言われたことがとても印象に残っているのですがこの俳句を作りました。ブランコをおすたびに、子どもたちが笑顔になるので、おしている私もとても楽しかったです。

【解説】

実習中に、部分保育をさせていただいた時に、折り紙でカメラを子ども達と作り、できたカメラで子ども達を撮ると笑顔で決めポーズをしてくれて部分保育をしてよかったと思いました。その後も、自由遊びの間も楽しそうに遊んでくれていてうれしい気持ちになりました。

「はいチーズ」
みんなで笑顔
決めポーズ

(保育学専攻)

お迎えだ
笑顔で向かう
親の元

(保育学専攻)

【解説】

実習中、1歳〜5歳までの子ども達のクラスの体験させてもらい、その中で一番印象に残っていたのが、親御さんの元へ走っていく、子どもの笑顔でした。今日一日どんなことがあったのかを、楽しそうに話している子どもの姿を見て、子どもにとって、親が最も安心できる存在なのだと感じました。

外遊び

子どもは元気

先生ぐったり

(保育学専攻)

【解説】

毎日の外遊びで子どもたちの元気を改めて実感しました。どれだけ鬼ごっこをしても疲れを知らない子どもたちは私が椅子に座って休んでいる間にも「先生追いかけてきて」と声をかけてくるので休む暇がありませんでした。私が砂遊びをしても「鬼ごっこしよう」と声をかけてくるので私が実習期間中にやっていた外遊びは鬼ごっこだけです。

一歳児

負けじとスプーン

持ちかえる

(保育学専攻)

【解説】

一歳児の子どものスプーンの持ち方を直しても三秒後くらいにはスプーンの持ち方が元に戻っていて、一歳児の子どもも先生も何回も持ちかえたり、直したりしたという経験。

追いかけてっこ
子ども対自分
容赦なく

(保育学専攻)

【解説】

外遊びの時間に子どもたちに「鬼ごっこしよう」と言われ「いいよ」と返事をしました。子どもたちの話を聞いてみるといつの間にか子ども対自分になっていました。子どもたちは全力で自分を追いかけるのでとても大変でした。

鬼ごっこ
追いかける
鬼なのに…

(保育学専攻)

【解説】

子供たちと鬼ごっこしたときに、鬼は自分なのに、なぜか大勢の子ども達が追いかけて来たので、追いかかれながら追いかけていました。

遊ぼうと
私の腕を
奪い合う

(保育学専攻)

【解説】

子どもたちが、一緒に遊ぼうとたくさん声をかけてくれた際に、一緒にしたい遊びが違う子どもたちが、「私が先生と遊ぶの」「違う、僕と一緒に遊ぶの」と私の腕を取り合って奪い合いをしてくれたときの出来事を表しました。

人生の
モチ期が一回
来た気分

(保育学専攻)

【解説】

実習中毎日たくさんの子ども達が「先生！先生！」と笑顔で声をかけてくれたり、完成した塗り絵を「先生にあげる」と言ってプレゼントしてくれたり、子ども達の優しさが嬉しくてモチ期が来た気分になったのでこの句にしました。

自慢気に
作った作品
見せてくれた

(保育学専攻)

【解説】

実習中に作品展があつた。保育士が子どもたちを誘導し自分の作品の前で写真を撮りに行った。その時に私も一緒に着いて行ったのだが、その際に自慢しながら「これ自分が作ったんよ」と作品に指を指しながら言ってくれた。

「はいどうぞ」
見つめる先に
プレゼント

(保育学専攻)

【解説】

子どもたちが、毎日のように折り紙で折ったものや画用紙に書いた絵などを、私のところまで持ってきてくれたことが本当に嬉しくて、実習は大変だったけど、この子どもたちからの笑顔を見ると頑張ることができた。

【解説】

氷鬼
タツチされれば
君バナナ

(保育学専攻)

実習中で年中、年長組の子ども達と戸外遊びで一緒に遊ぶ際、氷鬼ごっこをしました。普通の氷鬼ではなく、バナナ氷鬼ごっこというのが流行っていました。タツチされた際、普通はそのタツチされた時の動きで止まるのですが、バナナ氷鬼ではタツチされた際にバナナの形になって止まっておくというルールでした。戸外遊びでは毎回これをしました。私が実習中した遊びの中で一番印象に残っているものです。子ども達が全員で遊ぶのはこの遊びが多く、皆が笑顔で走り回ったり、協力して逃げたりしている風景を見て、そして実際に一緒に活動することでも印象に残りました。

【社会福祉援助技術現場実習】

- 山本 のどか (医療福祉学専攻)
柏原 昌宜 (医療福祉学専攻)
中本 裕大 (医療福祉学専攻)
宮地 慎哉 (医療福祉学専攻)

【精神保健福祉士実習】

- 村口 敬汰 (医療福祉学専攻)

【介護実習】

- 森藤 穂高 (介護福祉学専攻)
西尾 友伽 (介護福祉学専攻)

【保育実習】

- 檀上 そよか (保育学専攻)
速水 音 (保育学専攻)

『医療福祉学部福祉文芸集2019』

「現場」にふれた学生たちの想い』

2020年3月 発行

編集・発行 広島国際大学医療福祉学部

医療福祉学科

〒739-2695

広島県東広島市黒瀬学園台

555-36

電

話

0823-70-3611